

～マッキ Mc200 戦闘機



[同じく砂漠迷彩を纏った Ba88 と→]

本機、マッキ Mc200 は 1936 年に初飛行したイタリア空軍の戦闘機です。胴体中央を高くして、ここにコクピットを設けるという、そのデザインコンセプトが明確な機体です。このような思い切ったレイアウトをとってもうまくまとめて美観が損わないのは、数々の美しい自動車を生み出してきたイタリア人らしいセンスの良さによるのだらうと思います。コクピットから機首にかけてスラント(傾斜)させるとともに、エンジンカウリングもシリンダーヘッドを逃がすための紡錘形の膨らみを形成して直径を極力小さくしており、コクピットからの良好な視界は良好だったらうと思われます。本シリーズ(6)で取り上げたコルセア戦闘機と対極な外観を有する機体です。本機の愛称はサエッタ(saetta)で、イタリア語で稲妻の意味です。なお、イタリア空軍機の塗装にはグリーン/ブラウン斑点というような大柄な迷彩塗装もありますが、このサンドイエロー上にダークグリーンの斑点を施した、北アフリカ戦線で施された砂漠迷彩がやはり一番美しいように感じます。

【模型について】

スロバキアの AML 製 1/72 の簡易インジェクションキットです。とはいえ、プラスチックパーツだけではなく、カウリングなどのレジンパーツとエッチングパーツが付属しており、いわば複合素材キットと呼べるものです。プラスチックパーツ部分は多少ラフですが、レジンパーツが高品質なので、うまく組み上げるとキリっとした作品となります。